



こども家庭センターだより



あし た

明日もしあわせ通信 (第99号) 令和6年9月号

伊予市子育て応援宣言 ～育てよう未来の伊予 世界をかけるこどもたち～
子育て相談は こども家庭センター TEL(089)989-6226

残暑お見舞い申し上げます！

今年も猛暑が続いています。「記録的な暑さ」が毎年続き、熱中症の心配も年々増しています。近年は、暑さに加え、ゲリラ豪雨に雷雨、それに伴う道路の冠水にがけ崩れと、日本中のあちこちに被害が広がっています。松山で起こったがけ崩れは、本当に悲惨で、被害にあわれた方々のことを思うと、心が痛みます。被災地の日も早い復旧と被災された方々の心のケアが望まれます。

このような状況の中ではありますが、パリオリンピックが開催されました。日本人選手の応援で、寝不足が続いた方も多いのではないでしょうか。国の期待を一身に背負い、「チーム・JAPAN」の旗印のもと、全力を尽くして競技する選手の皆さんの姿に感動し、心を打たれました。特に、郷土出身の松山英樹選手の試合は、多くの皆さんが固唾を飲んで応援されたことと思います。



まだまだ残暑が厳しいですが、私たち職員も「チーム・こども家庭センター」として、心を一つにして、市民の皆さんの心に寄り添いながら、福祉の充実に努めていきます。 (T・M)

教育支援教室「はばたき」～はばたきでの勉強&パリ五輪から感動と勇気を・・

子どもたちは44日間の夏休みに様々な体験をし、ほとんど毎日「はばたき教室」に通い宿題をやり遂げて満足感を味わった子もいました。また、パリ五輪を見て大きな感動や勇気を与えてもらった子もいました。特に体操の橋本選手は2種目のあん馬で、落下するミスがありながらも（はばたきで勉強）最終種目の鉄棒では、ミスのない演技で着地を決めると、場内が歓声に沸きました。しかし、橋本選手は次に最終演技を控えている中国の選手のことを考え、自分の口元に人差し指を当てて鎮まるように呼びかけ、中国の選手に「頑張ってください。」のハグと握手をしたのです。どの選手もライバルでありながらも、相手のことを思いやれる橋本選手の行動に世界中が感動して温かい気持ちに包まれたのです。



子どもたちは様々な体験から、心を動かされたり感動したりします。その体験から「自分もやりたいことを頑張ってみよう。」と、自分の夢に向かって一歩を踏み出す気持ちをこれからも持ち続けてほしいと願っています。 (H・T)

不登校のご相談は、はばたき教室 ☎ 989-5022 携帯直通 080-2974-4580 です。

今は、何かを調べたいと思えばスマホ等で検索すると大抵のことはすぐに知ることができ、その記事が本当に正しい内容を書いているのかがわからなくても、自分でいいと思うものを選んで参考にしています。

しかし、報道などによると、最近は記事や画像や動画などは偽物が簡単に作成できるそうです。でも、それを見極めるのはかなり困難です。結局、これまでの自分の知識や体験から、信じられるものを正しく選択していく必要があるのでしょう。

なので、自分の知識や体験の豊富さはとても大切だと思います。豊富であればあるほどネットの情報の選択、選別が正しくできるのではないかと思います。そのためにも、子どもたちにはしっかり勉強してもらい、いろいろな体験を積み重ねてもらうことが大事なのではないかと思います。おびただしい情報の前にさらされている子どもたちには、ぜひこれからの社会で正しく生き抜いていく力を身に付けてほしいと切に願っているところです。

(M.S)



わくわくクッキング

おおぞらでは「わくわくクッキング」と称して、月に何度か食事を提供しています。利用者の希望に添ったメニューを2人の調理員が交替で作っています。利用者によっては、一緒に食事を作ることもあります。何事も経験が大事。慣れない手つきで調理に向かう姿はとても真剣です。達成感を味わうことができたのでしょうか。配膳された料理に自然と笑顔が漏れます。

今までに提供された食事は、から揚げ、うどん、親子丼、ハンバーグ、オムライス、チキンカレー、スパゲティ、とんかつ、炊込みご飯、ビーフシチューなどなど調理員の隠し味があるのでしょうか。どれも美味しく頂くことができます。調理しながらコミュニケーション、食べながらコミュニケーション、片付けながらコミュニケーション、しかも栄養満点・・・よいこと尽くしの「わくわくクッキング」です。

お子様の不登校やひきこもりで、困ったり、悩んだりしている保護者の皆様、まずはお電話でのご相談をお待ちしております。

(k・H)



めぐいこつうしん

ある日の出来事

調剤薬局で順番を待っていると、突然、泣き声が響き渡り、振り返ると2才前後の男の子が床に伏せて足をバタバタさせていました。若い母親は、両手に紙コップを持ちオロオロするばかりだったので、私の出番とばかりに駆け寄り、その子に「大丈夫?」と声をかけました。するとパッと泣き止み、何もなかったようにそばのソファに一人で座りました。

母親がすぐ駆け寄り、ジュースの入った紙コップを手渡すと何事もなかったようにゴクゴクと飲み干しました。

「いつもここでジュースを飲むのが楽しみなんです」とお母さん。

この位の年齢の子はうまく自分の気持ちを伝えられないので、手振り、身振りとともに泣いて訴えることが多いのですが、それを??と捉えるか、言いたいことを代弁してあげるかで、反応が変化します。

「早くして!!」と言いたかったのでしょうか。

その子を中心に三人で座り、お母さんに「順調に発達していますね」とお話をしました。

自己主張できることがこの年齢には一番大切なこと。

親にとってはしんどいかもしれませんが、自立への第一歩です。

(c y)



(☎ 989-5014)

伊予市こども家庭センター

伊予市尾崎3-1

総合保健福祉センター2階

(電話)089-989-6226